

○八坂寺境内

寺伝によれば、修験道の開祖・役行者小角えんのぎょうじゃおづぬが開いた古い寺で、大宝元年（701年）、文武天皇おちのたまおき（在位697～707年）の勅願により越智玉興が堂塔を建立した際に、八か所の坂道を切り開いて創建したことから寺名とし、ますます栄えるという意味の「いやさか（弥栄）」にも由来するとされています。弘仁6年（815年）には弘法大師が荒廃していた寺を再興して霊場と定め、本尊の阿弥陀如来坐像は、恵心僧都源信えしんそうすげんしん（942～1017年）の作と伝えられています。その後、修験道の根本道場となり、「熊野八坂寺」とも呼ばれ隆盛を極めました。天正年間（1573～1592年）の兵火以降、寺の規模は縮小し、現在は清閑な里寺の雰囲気漂わせています。



八坂寺 大師堂（左）と本堂（右）